《第45回》　西原7町内子ども会（2）　「芋の苗植え 🍠」

育成会会長　加藤　洋子

令和４年5月7日（土） 昨年に続き２年目の芋作りです。今年は畝立てとマルチ張り作業からの挑戦という事で、5・6年生が頑張って作業をしてくれました。
使い慣れない鍬を使い、畝を整えてマルチを張ります。マルチが飛ばない様に金具で抑えて更に土をかけて…と、けっこうハードな力仕事でしたが、来週の苗植えに備え最後までしっかりと作業をしてくれました。

昨年秋に食べた美味しい焼き芋の味を覚えてるからこそ、頑張れたのかもしれません。

マルチ①　　↑ 畝立て：５・６年生が初めての挑戦

マルチ2

マルチ張り：結構ハードな力仕事でした

張り終えた３つの畝

畝立て・マルチ張り終了（慣れない鍬やシャベルを使って頑張りました。）

5月15(日) 苗植えには、1年生から6年生までの親子が参加し、1人３株ずつの苗を植えました。初めての作業をする1年生を上級生がサポートし、軍手が土で真っ黒になりながらも、賑やかに作業を終えました。

２週間後には、葉っぱが元気に育っている様子が確認できました。秋の収穫と焼き芋大会を楽しみに、みんなでお芋の成長を見守っていきたいと思います。

秋には芋がたくさん収穫できますように願って記念撮影

《事務局から》　　事務局長　白石和典

① 早速の活動報告有り難うございました。写真の順番で活動の流れがよく分かります。
昨年に引き続きの芋作り。そして今回は、先ず５・６年生が下準備の畝立て・マルチ張りを行い、次週目に親子が参加しての苗植えと、連続した素晴らしい活動が行われました。毎年同じ行事が行われることで、子どもたちは楽しみの予測がつきます。

② 今年のように、芋を植える前には、大変な準備（今までは大人が、今年は５・６年生が）をする必要があると言うことを、身をもって体験できたことは、素晴らしいことです。何から何までお膳立てでなく、この様な取り組みが正に市子協が理念とするキーワード**「子どもによる　子どものための　子ども会活動」**そのものなのです。あらゆる場面で育成者の支援は当然必要です。その上で、今回のように子どもたちに任せられることは任せることも大切です。

③ **子どもたちの「やる気」、「自律性」、そして、「やれた、やれるんだ」、「見守ってくれる大人と一緒にやった」という感覚を満たしてあげてください。**と総会の講演会で田中晶子先生が特に強調されて話されました。そのことを、西原７町内子ども会はもう既に実践されていたのです。その、子どもの自律性を醸成する取り組みに敬意を表します。

④ 全ての子ども会の全ての活動がこのようには出来ないと思います。他の子ども会も、田中先生の「自己決定理論」を先ずどれか１つ、自分たちの活動でも実践してみられたらどうでしょうか。
今まで大人がやっていた部分で、子どもで出来る部分を子どもに挑戦してもらう取り組みです。その分大人の負担は減るのではないでしょうか。子どもには必ずプラスになると思います。